

## 子供の躰方につきて

相摸 通信員 平 岩 繁 治

私は子供の躰方につきて少しく感じた事がありませんから御話し致しませう。

私の親戚に一人のわんぱく子供がありました、年はまだ六才二ヶ月許りでありますが、年に似合ぬ事をするので、両親は非常に心配し此の子供のために前後策を案じた事が度々であります、此のわんぱく子供は如何なる悪しき事をするかと申しますと、一は友達のをもちや等を始めとして、他人の者をいきなり手をかけて、いやだ〜といふのもさかず、取りにかゝるので、若し渡さない時は手當り次第着物の上でも、どこでもかまわず喰ひつきてなかせ、其の暇に取りて逃げ歸りて座敷の隅に積み重ねて悦ぶ習慣があるのです。今一つ

は火を持ち遊びあちらのいなぶら（藁を積みたる所）こちらのつくて（肥料を作るため藁草等つみたる所）に火をつけて「あーかじだ〜」と叫び土をつかみかけては此の上もない愉快としてをるのであります、それ故両親もあちらからもこちらからも、おしりを貰つていひ譯にこまるのであります、止むを得ず家の中にしぼりをいて番人をつけた等もあり、又日に二三回位は一所につれ行きて遊ばせ等して、色色手に手をつくせども中々此の子供はさゝ入れず、少しもよき方に向きません。そこで両親も、是非なく火吹竹又は火箸にて打ちなぐり、これからあーゆうことをすると打ち殺すぞと色々戒しめましたが子供は只黙して頭を下げる許で物をいひません。夫から又物言はずして座敷にすわつて、其のまゝねむつてしまひして

とも度々ださうです。

或日其の子のお父つさんが私の許に來まして申しますにはどうしたらばわの子の性質がなをるだら一と。私もあいさつにこまりて即答は出來ませんでしたが暫く立ちまして一計を案じました、私の思ひますにわ彼の子供は生れながらにして其の性質を持ちしに非ずと思ひます、必ず其の原因があるに相違ないから、その原因をしらべるのが必要でせうが、今私が極端な計を考へましたから其れをやつて見るがよからう 即彼の有するき物をもちや等一つ所へ積み重ねて、子供の居る所にて火をつけて一家内の者集りて「利三(小供の名)火事た〜」と言つたらどうでしやうと申しました所がお父つさんは直ちに家にかへり子供の居ない間に、子供の物残らず積み重ねて前に用意して彼

れのかへり來るや否や直ちに火をつけて「利三火事だ〜」と一家の者寄り集りて叫びました所が彼れ如何にかしけん。急に母の傍に座し手をつきて泣きながら「を母さんを父さんかにん〜」とこゑをわけて改心したる風情ですから「それではをまへこれからお父さんやお母さんのいふことをさくことが出来るか」と問ひましたに彼れは頭を地につけて返事しましたで火に水をかけて消し止め、后父は靜に利三に向ひ「火事は大變をもしろいものだろ〜」とといしに「をもしろくはない」とこたへました。父又「をまへは今までなせはうぼうへ火をつけてをも白く遊んだのです」といしに「かにん〜」といひて物をいませなんだ尙父母は此の後如何にと心配してをりましたに、其の明る日より二三日は、誠に〜をちつきたる

